



盛り場を昔に戻す橋ひとつ

～南地の華・宗右衛門町を逍遙しながら～

近松門左衛門、谷崎潤一郎、織田作之助、小野十三郎、食満南北など、数多くの文人墨客が愛した大阪ミナミ、宗右衛門町。道頓堀の赤い灯、青い灯を眺めながら、その宗右衛門町の華だった、いまはなき大和屋の跡地を巡ります。盛り場を昔に戻す、橋ひとつ…。

5 二つ井戸

3代将軍・徳川家光が寛永11年(1634)に大坂三郷の地子銀免除を宣言。この恩恵に感謝して釣鐘「仁政の鐘」を作りました。この鐘を鑄造するさいに使われた井戸水が二つ井戸と伝えられています。また二つ井戸前にあったのが宝暦2年(1752)に津国屋清兵衛が創業した老舗菓おこし店「津の清」です。喜田川守貞『守貞漫稿』には「大阪道頓堀二つ井戸西津の国屋清兵衛専ら之を製し売りて今世名物となり、各月毎日所要の黒糖を用ふるこ海内一とす」と記され、近松門左衛門の浄瑠璃「生玉心中」や山崎豊子の小説「のれん」にも登場します。

6 下大和橋

かつて東横堀川から日本橋筋付近まで大和町があり、それが橋の名前の由来です。正徳5年(1715)の近松門左衛門『生玉心中』では「こころこころの、商ひも、みな世渡りの大和橋、下行く水の泡よりも、色にぞ銀は消えやすく」(「大和橋出見世の場」と描かれています。

7 法案寺南坊

寺伝によれば聖徳太子が志宜野の地に法案寺を建立。やがて生國魂神社の神宮寺となり、蓮如上人は法案寺の敷地に借地して大坂本願寺(石山本願寺)を建立したといひます。天正11年(1583)、秀吉の大坂城築城で生國魂神社とともに馬場崎(現・生玉町)に移転。現在の大坂城近くの地名・法円坂は法案寺が訛ったものという説があります。明治時代に入って廃仏棄釈で寺領を失い、明治16年(1883)に現在地に移転しました。大阪七福神(三光神社・長久寺・四天王寺・今宮戎神社・大國主神社・大乗坊・法案寺)のひとつで弁財天を祀り、また「日本橋の聖天山」と親しまれています。本堂の聖観音立像は高さ1メートルほどの木造で平安末期の作とされ、国の重要文化財となっています。

8 道頓堀紀功碑

道頓堀を開削したといわれる安井道頓、安井道トを顕彰した石碑です。道頓については出自など諸説あって、どういった人物であったのか詳細が不明で、大坂夏の陣で豊臣方について戦死したともいわれています。当初は「南堀」「新堀」と呼ばれていましたが、徳川家康の外孫・松平忠明が大坂を治めたさいに、道頓の功績を評価して「道頓堀」と名付けました。紀功碑南の道頓堀に掛かっている橋が日本橋で、これは紀州街道で、御三家の紀州藩の参勤交代道にも利用され、大坂では珍しい公儀橋(幕府が直接管理する橋)でした。

9 食満南北(けまなんぼく)句碑

食満南北(1880～1957)は堺の裕福な酒造家の息子で、幼少の頃から芝居や落語など芸道に精通していました。坪内逍遙や村上浪六に師事したり、色んな職を転々としてきましたが、明治39年(1906)、3代目片岡我當に招かれて松嶋屋の座付き作者に。明治42年(1909)からは初代中村鷹治郎の招きで松竹に所属。鷹治郎の座付き作者として数多くの戯曲、随筆、評論を書き、上方劇壇の重鎮として君臨しました。主な作品に「ぬれごろも」「聚楽物語」「桜のもと」「心中宵庚申」などがあります。[作者部屋から]『大阪の鷹治郎』などは明治～戦前期の関西歌舞伎を知る貴重な資料にもなっています。句碑は「盛り場をむかしの戻す はしひとつ」。南北は毎日毎晩この橋を渡って、芝居に通ったといひます。

1 谷崎潤一郎文学碑

文豪・谷崎潤一郎は明治19年(1886)に東京・日本橋に生まれました。大正12年(1923)の関東大震災を契機に関西に移り住み、大阪の風土や文化に影響されて『春琴抄』『細雪』などを発表。日本文学に不朽の名を留めました。文学碑には、愛情の冷めた夫妻が文楽を見学して、夫が「心中天の網島」の美しい人形の動きに心奪われていく…という『夢喰ふ蟲』の一節が刻まれています。『夢喰ふ蟲』は昭和4年(1929)に完成した作品ですが、翌年、谷崎潤一郎は千代夫人と離婚して、友人の小説家・佐藤春夫に再婚させるという有名な「細君譲渡事件」を起して世間を騒がせました。『夢喰ふ蟲』の不仲の夫妻の描写には、事件に至るまでの谷崎の心理的葛藤や逡巡が垣間見えます。ちなみに谷崎潤一郎文学碑は国立文楽劇場西に設置されていますが、東には近松門左衛門『重井筒』の「道行芝居づくし」の文学碑が設置されています。また、どちらの石碑にも人形浄瑠璃の黄金期を築いた竹本座、豊竹座の紋章が刻まれています。

2 国立文楽劇場

昭和59年(1984)開館。建築設計は黒川紀章。元は大阪市立高津小学校の跡地でした。世界無形文化遺産指定の文楽(人形浄瑠璃)、舞踊、落語、漫才、浪曲といった上方演芸の公演が定期的に開かれています。ロビーには劇場建設に尽力した近鉄グループ総帥の佐伯勇の胸像が飾られています。

3 天牛書店跡

創業者・天牛新一郎が二つ井戸で古本屋を開き、大正初期に日本橋南詰に大型の古本屋を構えました。それまでの古本屋は客の顔をみて値段を決めていたのを撤廃して良心的な値札をつけて販売。これが大成功して、折口信夫、武田麟太郎、長谷川幸延らが「大阪古本大学」と呼んで通いつめたといひます。また二つ井戸店の2階には百畳敷きの大広間「道頓堀倶楽部」があって素人浄瑠璃などの演芸会で人気でした。作家・織田作之助も常連で、「夫婦善哉」の中でも「道頓堀倶楽部」の素人の義太夫大会の話が登場します。また「自分の本が売りに出されたら取っておいて欲しい」と店主に頼み、それらにサインをして贈呈本にしたというエピソードが伝わっています。昭和20年(1945)の大坂大空襲で焼失。現在は江坂に本店を移転し、天神橋筋商店街に支店があります。

4 妙見宮自安寺

寛保2年(1742)に千日前刑場横に創建。『浪花百景』に「自安寺妙見宮朝参の図」(長谷川貞信筆)の錦絵が描かれています。「千日前の妙見さん」と親しまれ、とくに縁日の「坂町の夜店」は現在の湊町付近から日本橋一丁目付近まで夜店が出て、順慶町夜店や平野町夜店と並ぶ大阪三夜店として有名でした。明治3年(1870)に千日墓と刑場が廃止されると千日前は歓楽街となり、明治17年(1884)以降は、南地五花街(宗右衛門町・九郎衛門町・坂町・檜町・難波新地)の花柳界の人々が参詣して華やいたといひます。また当時は24時間中門があいていて、いつでも参詣できました。戦災に遭い、昭和42年(1967)に大阪市の都市計画によって現在地へ移転しています。



10 南地大和屋跡

明治10年(1877)、初代阪口うしが置屋(芸妓扱所)「大和屋」を開業。明治43年(1910)には「大和屋芸妓養成所」(芸者学校)を創立して、数多くの名妓を育て上げました(その成功を見て、後に阪急電鉄社長の小林一三が宝塚少女歌劇を創立しています)。大正13年(1924)には3代目阪口祐三郎がオッペケペー節で有名な川上音二郎の壮士劇の前座で、妻・川上貞奴が踊っていた「へらへら」をアレンジした「へらへら踊り」を考案。華やかで愛嬌のある座敷芸は一躍、大和屋名物となりました。上方座敷文化の殿堂として、大阪の財界人や文化人に広く愛されていましたが、平成15年(2003)に惜しまれつつ、閉店しました。

11 太左衛門橋

橋名は橋の東南角で歌舞伎小屋を開いた興行師・大坂太左衛門に由来するといひます。宗右衛門町、道頓堀の町衆によって維持されてきた町橋です。織田作之助の作品『女の橋』『船場の娘』『大阪の女』という3部作では太左衛門橋が登場して重要な役割を与えられています。また橋の南にかつてあったのが道頓堀五座のうちのひとつ「角座」です。宝暦8年(1758)には初世並木正三の考案で、世界で初めての「回り舞台」を設置。世界の演劇史上にその名を刻んでいます。

【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または [大阪あそ歩](#) でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。